

11月 食育だより

令和5年11月
京丹後市立網野南小学校
網野学校給食センター

11月8日 いい歯の日

11月8日は「いい歯の日」です。食事をおいしく食べることは、心と体の健康にも深く関わっています。むし歯や歯周病など、口の中に病気があると、食べ物をよくかんで食べられなくなり、栄養も吸収されにくくなってしまいます。

給食では、月に1回、8のつく日に「よくかんで食べるメニュー」や「歯を丈夫にするカルシウムたっぷりのメニュー」を入れています。健康な“いい歯”を保ち、食事をおいしく食べられるように、日頃の生活の中でも気をつけてみましょう。

むし歯とミュータンス菌の関係は？



むし歯にならない食生活のコツ むし歯がある人は、早めに治療しましょう



給食では「地産地消」に取り組んでいます!!

「地産地消」という言葉をよく聞くようになりました。地域で生産された農林水産物（地場産物）を地域で消費する取組ことで、食料自給率の向上をはじめ、地域活性化や、環境保護への貢献など、さまざまな効果が期待できます。学校給食では地場産物の活用を通じ、子どもたちへ地域の食文化や産業について伝えるとともに、生産者や食べ物への感謝の気持ちを持ってもらえばと考えています。



今月17日(金)には、例年行っている『まるごと京丹後食育の日』があります。京丹後市内の農家の方が作った野菜を中心に、また昔から食べられているメニューも盛り込みながら献立を実施します。今年は峰山町で作られている古代米の赤米を入れたごはんや古代米寿司を作ります。農家の方々や給食に関わっている方々に感謝しながら食べてほしいと思います。

“食事のあいさつ”に込められた想い

「いただきます」と「ごちそうさま」の食事のあいさつには、それぞれ意味があります。食事の前の「いただきます」は、食材となつた自然の恵み、生き物の命をいただくことへの感謝を表すことばです。食べ終わった後の「ごちそうさま」には、この食事をするために関わった人たちへの感謝の気持ちが含まれています。意味を考え、心を込めて言えるといいですね。



和食の魅力とは？

日本の食文化は、ユネスコ無形文化遺産に「和食：日本人の伝統的な食文化」として登録され、世界からも注目されています。この「和食」とは、料理のことだけではなく、「自然の尊重」という精神に基づいて育まれてきた食に関する社会的慣習を意味し、右のような特徴があります。持続可能な社会を実現するために大切にしたい食文化です。11月24日は、一般社団法人和食文化国民会議が定める「和食の日」です。和食を味わい、その魅力を感じ、これからの日本の食文化について考える機会にしていただければと思います。

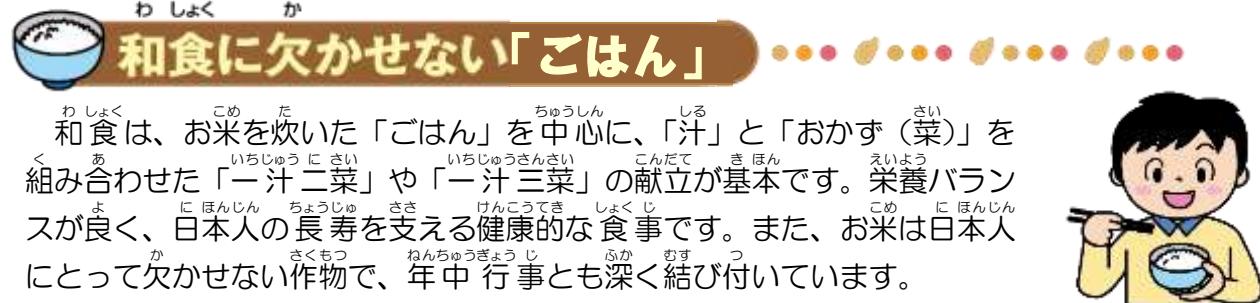
和食に欠かせない「ごはん」

和食は、お米を炊いた「ごはん」を中心に、「汁」と「おかず（菜）」を組み合わせた「一汁二菜」や「一汁三菜」の献立が基本です。栄養バランスが良く、日本人の長寿を支える健康的な食事です。また、お米は日本人にとって欠かせない作物で、年中行事とも深く結び付いています。

日本人が発見した「うま味」

だしの「うま味」は、和食の味わいに欠かせないものです。明治時代に、日本の科学者・池田菊苗博士が昆布のだからグルタミン酸を見出し、これを「うま味」と名づけました。イノシン酸やグアニル酸などのうま味成分も日本人によって発見され、甘味・塩味・酸味・苦味と並ぶ5つの基本味の一つとして世界でも認められています。英語でもそのまま「UMAMI」と呼ばれます。

和食の4つの特徴



和食のマナーをチェック！



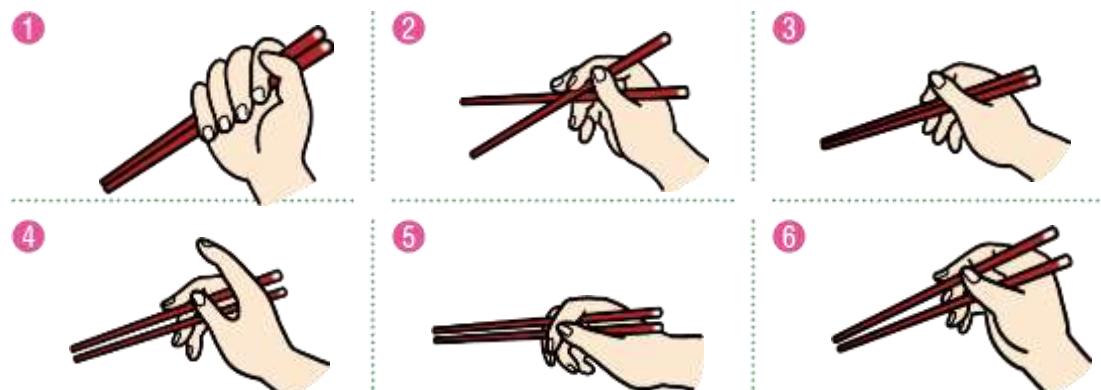
ごはんは左、汁物は右、おかずは奥に置くのが基本です。ごはんや汁物のお茶わんは、手に持って食べます。お茶わんを持って食べるところは少ないし、食べ方もきれいになります。

はしだけで食事をするのには、日本独自の習慣です。

おはしを上手に使えるようになろう！

あなたのはしの持ち方はどれですか？下の絵の中であてはまるものに○をつけてみましょう。お家人や先生にも見てもらいましょう。

あなたはどの持ち方？



正しいのは⑥です。

和食は先が細くなったらはしだけを使って食べることを前提にして発展してきました。汁物は椀を使って直接口に運びます。そして、その細いはし先となるべく汚さないで食べることが上品な食べ方になります。はし先が鳥のくちばしのようになり、小さなものもつまむことができる持ち方です。

ごはんを食べるときもごはん粒をつまんで口に運べるので、食べた後のごはん茶わんはとてもきれいです。後片付けもその分楽になります。

今はまだ上手にはしを使えない人でも、くり返し練習していくことが大事です。はし使いはかっこいい大人になるための一歩とも言えそうです。

